

令和2年12月 加茂市長定例記者会見

R2. 12. 2 (水) 10:00

1 加茂美人の湯の指定管理について

加茂市市民福祉交流センター加茂美人の湯の指定管理者の募集を8月3日から9月15日まで行いましたが、期間中に応募がなく、その後、募集要項を変更し、再公募を10月5日から30日まで行ったところ1件の応募がありました。

その1件を対象に選定委員会を開催し、検討した結果、合同会社 ^{かもじん}加茂人さんが選ばれました。

今後の予定としては、加茂市議会12月定例会で指定管理者の承認をいただければ、来年4月1日から指定管理者の運営となります。

加茂市内から手を挙げていただいたことは、とても嬉しく思っておりますし、PRや集客をはじめ、さまざまな部分で連携しながら、生まれ変わる加茂美人の湯を盛り上げていきたいと考えております。

2 加茂市独自の新型コロナウイルス感染症緊急経済対策「新型コロナに負けるな 加茂 サポート」第5弾について

これは、国の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の現時点での実績及び執行見込みにより事業費を減額し、新規事業費や不足する事業費を増額して実施するもので、11月24日の臨時会で補正予算が可決されました。新規及び増額した事業費は6,155万2,000円となります。

主な事業について説明します。

在宅介護サービス事業特別会計繰出・補助は、新型コロナウイルス感染症の影響で減収したサービス事業特別会計を支援します。予算額は4,500万円です。

飲食店等応援キャンペーンは、飲食店や小売業のPRをチラシなどで行い、スタンプラリーで応募された方に、抽選で地酒等をプレゼントします。予算額は210万円です。

公共的空間安全・安心確保支援事業は、①福祉事務所と健康課の窓口のブースに個別のパーテーションを整備します。②カウンターでできない相談ができるスペースを作ります。③授乳室を本庁、産業センター、図書館に整備します。予算額は362万2,000円です。

小学校トイレ環境改善事業は、市内小学校（加茂南小・七谷小）の和式トイレを洋式トイレに更新します。予算額は336万2,000円です。

地域経済活性化支援事業の加茂市三密対策支援金は、支援見込みが予算を超える見込みのため、予算を増額します。589万7,000円の増額です。

3 加茂市議会 12月定例会について

今回提出予定の議案は、まず令和2年度補正予算で、主なものは、既に今年度の目標額1億円を突破したふるさと加茂応援寄附金ですが、その増に対応し、返礼品を増やすための業務代行委託料などで4,858万4,000円、新型コロナウイルス感染症対策として65才以上の高齢者及び基礎疾患を有する方で無症状の希望者にPCR検査を本人負担2,000円で受けることができるよう費用を補助するために385万5,000円、準用河川堰の川改修など河川改修事業で2,050万円、基金積立金で2,755万1,000円です。

また、新規条例として、加茂市公の施設の指定管理者の指定手続き等に関する条例と加茂市国民保護協議会条例の制定があります。

指定管理者の指定手続き等に関する条例は、このたび加茂市市民福祉交流

センターと加茂土産物センター・インフォメーションセンターを指定管理とする予定となったため、既に指定管理条項を条例に含む産業センターを含めた複数の公の施設の指定管理について、手続きを一本化するものです。

国民保護協議会条例は、国民保護法で義務付けられた国民の保護に関する計画を策定するため必要な協議会を設置したいというもので、計画の策定は年度内を予定しています。

その他の条例は、地方税法改正に伴う国民健康保険税条例の一部改正、第四銀行と北越銀行の合併に伴う中小企業特別小口資金融資条例の一部改正、市が事業主体となっている3つのデイサービスセンターについて、令和3年度から事業主体を社会福祉法人加茂福祉会に変更するための加茂市デイサービスセンター設置条例の廃止です。

そのほかに、加茂市市民福祉交流センターと加茂土産物センター・インフォメーションセンターの指定管理者の指定と固定資産評価審査委員会委員の選任を提案する予定です。

4 読書の記録帳の運用開始について

市立図書館では、現在借りている本を記録できる読書の記録帳プリンターを設置しました。「読書の記録帳」とは、銀行の通帳とよく似た冊子で、自分の借りている本のタイトル等を記録し、読書の履歴を貯めていく「どくしょのきろく」です。親子で本を読む「りすのこーちゃん」と図書館のキャラクターが並ぶかわいらしいデザインの通帳を作成しました。

今現在借りている本の「年月日」「書名」「著者名」を、読書の記録帳プリンターを通して自分で印刷できます。ふりかえりの「☆☆☆」(星3つ)には、自分の想いで自由にランク付けすることもできます。

対象は、小学生以下の子どもを主体に考えていますが、希望があれば中高校生へも配布します。運用開始は、12月5日(土)からの予定です。

『今まで何冊読んだかな?』、『前に読んだあの本のタイトル何だったかな?』、そんな時「どくしょのきろく」を振りかえってみてください。図書館からたくさん本を借りて、小さい頃に読んだ本を「どくしょのきろく」として残し、本の思い出としてもらえればと思います。